

### 関西大学図書館ウェブサイト「電子展示室」

日本の昔話や風俗を欧文とエキゾチックな挿絵で紹介した明治期の和綴じ本

## 「ちりめん本」を公開中

～「Princess Splendor(竹取物語)」をはじめ、カレンダーや写真など8タイトル～

関西大学図書館では、日本の昔話や風俗が欧文と挿絵で紹介されている「ちりめん本」の8タイトルを電子図書館「ちりめん本」としてウェブサイト上に公開しました。

ちりめん本は、明治期の日本で初めて作られたもので、揉んだり伸ばしたりすることで縮緬布に似た質感を与えられた和紙「ちりめん紙」に、欧文と挿絵を印刷した和綴じ本の通称です。

当初、ちりめん本は「童蒙に洋語を習熟せしむるため」として、日本国内の人々、特に子どもの語学教育を目的に販売されました。

今回、公開したちりめん本は、ちりめん本の代名詞といわれる“Japanese fairy tale series”を出版した長谷川弘文社の「Princess Splendor (竹取物語)」の全96ページの掲載をはじめ、子どもの遊びや日本女性の生活が描かれたカレンダー、壮士節などの歌詞と楽譜が書かれたもの、写真で日本の生活を紹介しているものなどがあります。

関西大学図書館 電子展示室  
ちりめん本トップページ

<http://www.lib.kansai-u.ac.jp/etenji/etenji-top.html>  
<http://www.lib.kansai-u.ac.jp/etenji/chirimen/index.html>



Copyright (C) 2006 Kansai University. All Rights Reserved.

< 関西大学図書館 電子展示室に掲載中の「Princess Splendor (竹取物語)」 >

現在ではちりめん本の再現は難しく、ちりめん本は資料として高い評価を得ています。また、語学教育という当初の意図から外れて、外国人の日本滞在の土産物として重宝されたことも興味深い点です。

平紙版の本には決してない柔らかで重厚な感触のちりめん紙に刷られたエキゾチックな日本画の美しさは、外国人に非常に好まれ、国内外にわたって広く頒布されました。

公開中のちりめん本タイトル一覧      各作品の解説は別紙参照

“Japanese fairy tale series” を出版した長谷川弘文社以外から刊行されたちりめん本も取り上げ、当時の日本の風俗や社会の様子をうかがい知ることができる幅広いジャンルを集めました。

- 1 . Princess Splendor (発行：長谷川商店)  
日本初期の物語である竹取物語(かぐや姫)の英語訳
- 2 . THE MONTHS OF JAPANESE CHILDREN : CALENDAR FOR 1904  
(発行者：長谷川武次郎) 月々の行事や遊びの中の子どもが描かれたカレンダー
- 3 . The children's Japan (発行者：長谷川武次郎)  
日本の子どもの生活に関する紹介本
- 4 . Japanese Topsyturnydom (発行者：長谷川武次郎)  
日本の風俗・文化を紹介。Topsyturnydom は、めちゃくちゃ、混乱した状態という意味
- 5 . The “SOSHI BUSHI” (Japanese Soshi's song) (発行者：倉田繁太郎)  
日本の演歌の元“壮士節”を紹介
- 6 . The Months of Japanese Ladies for 1904 (発行者：長谷川武次郎)  
日本女性の生活の様子が月ごとに描写されているカレンダー
- 7 . Illustrations of Japanese life (発行者：小川一眞)  
写真入りのちりめん本。撮影は明治に活躍した皇室御用達の写真家・小川一眞
- 8 . Kohana san (発行者：T. HASEGAWA)  
神戸三宮の芸者小花のことを歌にした楽譜付きのちりめん本

長谷川武次郎

嘉永6 (1853)年に日本橋の西宮家に生まれ、25歳から母方の長谷川姓を名乗る。クリストファー・カロザースのミッションスクール(後の明治学院)やウィリアム・ホイットニー校長時代の銀座の商法講習所(後の一橋高商)に通ったことから、在日宣教師、知識人、外交官等との交友を広げ、国際的感覚を養った。

明治17(1884)年に長谷川弘文社として出版活動を開始。明治18 (1885)年から、ちりめん本の“代名詞”といわれるほど有名な Japanese fairy tale series の刊行を始める(ちりめん本の流通の始まり)。

<参考文献>

石澤小枝子『ちりめん本のすべて：明治の欧文挿絵本』三弥井書店, 2004

瀬田貞二『落穂ひろい：日本の子どもの文化をめぐる人びと』上下巻, 福音館書店, 1982

## 1 . Princess Splendor

Princess Splendor, the wood-cutter's daughter は、竹取物語(かぐや姫)の英語訳である。現物には Japanese fairy tale series, extra no. という記載がある。

英語訳は、1872年に来日した長老派の宣教師、Edward Rothesay Miller。挿絵は小林永濯。表紙と裏表紙を合わせて全96ページあり、ちりめん本の中でも際立って大部のものである。文、絵ともに質の高さもちりめん本の中で屈指のものである。

文を囲む枠のデザインには竹の節を用い、全体に簡素で、上品な作りとなっている。20枚の挿絵は、落ち着きながらも、重みのない筆致で描かれ、字を追う目をとこところで楽しませてくれる。また、ページ数は、「竹ノ～」というように表現されており、洒落な面白味も感じられる。

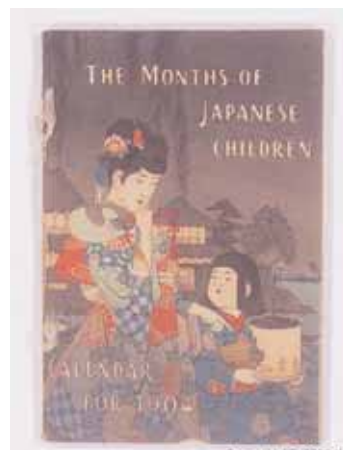
ちりめん本としては珍しく章別されており、話の流れに沿った分け方がされている。



## 2 . THE MONTHS OF JAPANESE CHILDREN : CALENDAR FOR 1904

羽子板や凧揚げ、ひな祭りに端午の節句、七夕にお月見というように、月々の行事や遊びの中の子どもが描かれたカレンダー。文章はなく、例えば1月は“Outdoor Amusements on New Year's Holidays.”とだけ記され、羽子板や凧揚げに興じる子どもたちが描写されている。

本学所蔵のものは第5版。文の著者や絵師の名の記載はないが、第4版の絵師は新井芳宗であるらしく、画風が酷似していることから、第5版の絵も新井芳宗の手によるものだと考えられる。



## 3 . The Children's Japan

Mrs.W.H.Smith によって書かれた日本の子どもの生活に関する紹介本。Japanese Houses、Japanese babies、Japanese holidayなどの主題を定め、説明や自身の感想に加え、主題における子どもの様子を記述している。

記述は、日本人の気立てのよさをほめあげており、全体的に日本に好意的に書かれている。

絵は三島蕉窓によるものらしいが、本学所蔵の現物では確認できない。躍動感があり凝った構図は、読み手を楽しくさせる。



#### 4 . Japanese Topsy-turvydom

まず、表紙を見ると、英文で書かれた書名と著者名が縦書きであるのが目に留まる。また、裏表紙の左肩には、芦ノ湖に映る富士山の絵にかぶさって、“This is the front of Japanese books.”(日本の本では、こちらが最初のページである)と書かれ、邦文と英文の本の違いが強調されている。

内容は日本の風俗・文化の何もかもが欧州のそれとは異なり、さかさまであることを示しており、著者の Mrs.Patton は、それを説明し、時には自分の所感を付け加えている。ページ数は多くはないが、文字がかなり詰めて印刷されており、字数はかなり大部なもの。

絵師の名は記述されていないが、俯瞰的な視点で描かれ、風景画めいた挿絵が多い。また、英文の横書きを意識してか、ほとんどの挿絵が横の動きを感じさせるように描かれている。



#### 5 . The “SOSHI – BUSHI” (Japanese Soshi's song)

編者は東洋音楽学校(後の東京音楽大学)を創立し、唱歌「赤穂義士」の作曲者である鈴木米次郎。本中の歌詞と楽譜は鈴木の手によるものらしい。挿絵は北村透谷の弟の丸山古香(本名:丸山垣穂)。出版は明治31年。

“SOSHI-BUSHI”とは、日本の演歌の元である“壮士節”のこと。明治19年頃に始まった自由民権運動の運動家が壮士と呼ばれ、その思想を宣伝するために街頭で演説の代わりに歌ったものである。

その後、演歌を専業とする演歌屋が現われ、明治43年頃に「ヴァイオリン演歌」が現われた。演歌は、ニュースを伝えるという役割を他のメディアに移譲し、思想的側面を失いつつ、歌謡として現在に残っている。

構成は、楽譜のページから始まり、その後1番から6番までの歌詞と歌詞に沿った挿絵の入ったページが続く。歌詞を囲む枠や枠の周囲を飾る装飾、全体の構図も凝ったものがある。ちりめん本としても、史料としても、資料的価値のあるものだと思う。

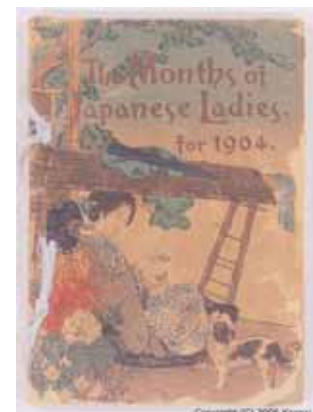


#### 6 . The Months of Japanese Ladies : Calendar for 1904

日本女性の生活の様子が月ごとに描写されているカレンダー。特に文章はなく、1月なら The game of cards of the hundred poems during the New Year holidays というように、月ごとに簡単な一文が添えられているだけである。

女性を描写するということで静的な絵が多いかと思いきや、どの挿絵も「生活する女性」が見事に描かれている。

出版事項は、December のページにある雪が降り積もった石にかぶせる



ようにして記載されている。それによると、本学所蔵のものは明治36年に発行された第2版のものであり、絵師は新井芳宗である。

## 7 . Illustrations of Japanese life

一枚の写真の下に欧文で“Greeting”、“Letter writing”といった題が書かれ、その説明が加えられる体裁のちりめん本。明治29（1896）年に何冊かまとめて出版された。本学では4種類、5冊を所蔵。そのうち1種類だけ、版違いのものが2冊あり、内容が一部変更になっているので併せて公開した。



発売元は、小川一眞寫眞館。小川一眞は50歳で帝室技芸員に任命されるなど、明治期に活躍した皇室御用達の写真家。旧千円札の夏目漱石の肖像は小川の撮った写真が元になったという。

取り上げられている写真は食事の様子や、僧、按摩師等の特殊な職業や、くさぐさの仕事の紹介、祭りの様子などとりとめがない。本ごとに主題が統一されているわけでもなく、写真が印刷されているということ以外に、これと見るところもないようなものであるが、本学所蔵のものをみるだけでも大正7年には12版に達しており、需要があったことがうかがえる。

## 8 . Kohana san

「つづくにのうたひ女小花をよめるながうた」と表紙にあるとおり神戸三宮の芸者小花のことを歌にした楽譜付きのちりめん本。

楽譜のページの後には、6番まである歌の歌詞のページとなり、歌詞に即した挿絵が入れられている。著者は、F.M.Bostwick、Kohana san と呼ぶ芸者が実在していたかどうかはわからないが、小花さんの父が大名だったとか、赤穂浪士四十七士の血筋だったと歌われている。外国人好みの大名行列や四十七士の挿絵を入れているのがどこか作為めいて感じられる。



絵師の名はないが、歌の内容に合わせて描かれた芸者たちの芸事や髪梳きの場の描写の美しさはすばらしいものがある。

【この件に関するお問合せ先】

関西大学 総合企画室広報課 / 鶴丸、北谷

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35 TEL:06-6368-0075 FAX:06-6368-1266

<http://www.kansai-u.ac.jp>